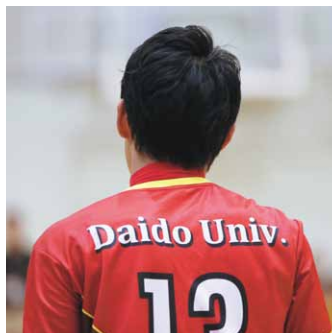


DAIDO CAMPUS

No.92 2017.12





Volleyball

男子バレーボール部 東海大学男子バレーボールリーグ戦 秋季大会で創部から53年、初の優勝!

10月22日(日)にAGUスポーツセンター(愛知学院大学)で、東海大学男子バレーボールリーグ戦 秋季大会の最終戦が行われ、本学の男子バレーボール部が創部から53年、初の優勝となりました!

最終戦の対戦相手は中京大学。最終戦は黒星となってしまいましたが、得失点差で優勝を飾ることができました!

大同学園関係者、OB、保護者、男子ハンドボール部が応援に駆け付け、それに答えるように選手たちも最高のプレーを展開しました。

引き続き、男子バレーボール部の応援をよろしくお願いいたします。



佐藤壮一郎監督(男子ハンドボール部) ハンドボール男子ユース世界選手権 で日本ハンドボール界史上初の 8位に導きました

8月8日(火)~20日(日)、ジョージアで開催されたハンドボール男子ユース世界選手権で、本学 男子ハンドボール部監督の佐藤壮一郎教授が日本代表チームの団長を務め、見事、日本ハンドボール界史上初の8位に導きました。また、この件は9月15日(金)付の中日スポーツ、16日(土)付の中日新聞に取り上げられました。

選手権は24カ国が参加し、日本は予選リーグで3位に入り、決勝トーナメントに進出。一回戦でエジプトに最大7点差をつけて過去最高の成績を収めました。2020年の東京オリンピックを控え、「育てた選手が東京のコートに立ててくれたら最高。黄金世代として今後も世界を目指して育成していきたい。」と抱負を語っています。



個人賞受賞者
 リベロ賞・サーブレシーブ賞: 備一真さん(2年)
 スパイク賞・サーブ賞: 小林雅也さん(3年)
 最優秀選手賞: 永井智さん(4年)

男子バレーボール部 永井智さん 西日本大学 男子バレーボール 学連選抜対抗戦で 最優秀選手賞を 受賞しました!



8月29日(火)~31日(木)、第18回西日本大学男子バレーボール5学連選抜対抗戦が開催され、東海学連選抜が見事優勝しました!

本大会は、東海、北海道、東北、北信越、韓国学生選抜を加えての9チームで争われました。

総当たりの予選リーグ選を1位で通過した東海学連は、準決勝で韓国学生選抜をフルセットの末勝ち上がり、決勝では関西学連選抜をストレートで下し、見事初優勝を飾りました。

キャプテンを務めた本学 男子バレーボール部 永井智さんは、チームをよくまとめ、勝負所でサービスエースを決めたり、ナイスレシーブ、ナイススパイクを連続したりと、チームを引っ張り、最優秀選手賞を受賞しました。

2017年(平成29年)9月15日(金曜日) 中日スポーツ

9月15日(金)付 中日スポーツ

2017年(平成29年)9月16日(土曜日) 中日新聞

9月16日(土)付 中日新聞

体力面でこ入れが成功
ハンドボール日本代表男子ユースの世界選手権で、日本代表監督を務める佐藤壮一郎教授が、選手たちを指導する姿が、9月15日(金)付の中日スポーツに掲載された。

Handball



男子ハンドボール部

全日本インカレ2年連続 ベスト4進出!3位に輝きました!

11月3日(金)~7日(火)、いしかわ総合スポーツセンターで開催された、平成29年度全日本学生ハンドボール選手権大会で、本学の男子ハンドボール部が昨年の創部以来初のベスト4進出に引き続き、本年もベスト4進出、3位に輝きました!!

6日(月)に行われた準決勝で国士館大学と対戦し、大同大学(24-30)国士館大学で敗戦となりましたが、大同大学の応援は日本一と称する声も聞こえるほど、最後まで試合を盛り上げ続けた応援と選手が一体となって最後まで攻め、ゴールを狙い続ける姿勢を崩しませんでした。平日にもかかわらず、多くの大同大学関係者及び、保護者が応援に駆け付けました。

また、キャプテンの原田竜汰選手が優秀選手賞を受賞しました。



男子ハンドボール部

秋季リーグ戦で会場演出をしました

9月16日(土)、18日(月)、本学の石井記念体育館で開催された秋季リーグ戦において、本学の男子ハンドボール部の学生が、卒業研究として会場演出を企画しました。

選手の入場時にライトアップの演出やMC、ハーフタイムショー、移動販売、キッズスペースを設けるなど、ハンドボールの本場ヨーロッパのように、ハンドボールの試合以外にも楽しめる要素がたくさん盛り込まれました。ハーフタイムショーでは、本学のストリートダンス部がパフォーマンスをし、学生ハンドボールが活気づく、良いきっかけとなりました。

会場演出については、9月15日(金)付中日スポーツ(本紙左ページに掲載)、16日(土)付中日新聞(同)、専門誌「スポーツイベントハンドボール」11月号でも取り上げられました。



専門誌「スポーツイベントハンドボール」11月号



写真提供:アルバム委員会



I D O Handball



男女ハンドボール部 東海学生ハンドボール秋季リーグ戦 女子が4期ぶり2回目の優勝!! 男子は準優勝!

10月1日(日)に中部大学にて、東海学生ハンドボール秋季リーグ戦の最終戦が行われ、本学の女子ハンドボール部が優勝、また、男子ハンドボール部も春季リーグに引き続き準優勝となりました。

女子は、中京大学と対戦。全勝同士の優勝決定戦となりました。春季リーグに、後半リードしながらも逆転で優勝を逃した中京大学戦。リベンジを果たすべくしっかりと中京大学対策を立ててこの試合に臨みました。常に序盤からリードした形で、自分たちのリズムでゲームを進めることができ、【大同大学 30(14-10、16-8) 18 中京大学】で見事、4期ぶり2回目の優勝を果たしました!

男子は、名城大学と対戦。春季リーグでは僅差で惜敗

したこともあり、こちらも女子と同様、リベンジをかけた戦いとなりました。惜しくも【大同大学 24(13-14、11-12) 26 名城大学】と、今回も僅差で敗れてしまいましたが、準優勝に輝きました!

大会期間中は、大学関係者や、学生が普段ハンドボールを教えている東海ハンドボールスクールの会員、父母、OB、大同グループ関係者が会場に集まり、一体となって声援を送りました。

なお、女子ハンドボールの活躍が11月2日(木)付中日スポーツに掲載されたほか、男女ハンドボール部の活躍は、専門紙「スポーツイベントハンドボール」11月号のリーグ戦の戦評で取り上げられ、男子ハンドボール部と、同キャプテンの原田竜汰選手がインカレの注目チームと選手としてピックアップされました。

【個人賞受賞者】

男子〈ベスト7〉

山口 慎之介(4年)
三重 樹弥(3年)

女子〈ベスト7〉

新船 萌(4年)
熊谷 美希(3年)
山口 遥(3年)

〈最優秀選手賞〉

福地 成以良(4年)

〈得点王〉

福地 成以良(4年)



11月2日(木)付 中日スポーツ



専門紙「スポーツイベントハンドボール」11月号

男女ハンドボール部 大同キッズ体験会を開催しました

10月7日(土)、15日(日)、本学の石井記念体育館にて、大同キッズ体験会を開催しました。

大同キッズは、小学校1~6年生を対象として、ハンドボールを本学の男女ハンドボール部の学生に教えてもらいながら体験したり、トップチームの試合観戦をしたりすることができます。また、『走る・投げる・飛ぶ』などの運動能力の向上に非常に適したハンドボールによって、体力の向上はもちろん、スポーツで学べるルールを守ることや、目標に向かって努力する大切さを学ぶことができるのも、大同キッズの魅力です。指導者は、本学事務職員の方の八田忠氏で、ハンドボール指導員の資格を取得しています。

体験会では、ボールの扱い方から、シュート練習、3対3のゲームなどのメニューが生まれ、それぞれで本学の男女ハンドボール部が、練習のフォローを行いました。

大同キッズは4月より本格的に開始予定で、今後も体験会の開催が予定されています。



〈大同キッズ詳細〉~平成30年4月からの活動予定~

日時:月3回程度 18:30~20:00

(土曜日を中心ですが、日曜日や月曜日でも実施します。)

場所:大同大学 石井記念体育館・スポーツコート他

対象:小学校1~6年生の男女 お問い合わせ先:daidokids@gmail.com

吉見春輝さん(情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

カヌーポロU-21日本代表に 選出され、アジアカヌーポロ 選手権大会に出場しました!



カヌーポロU-21日本代表に、本学のコンピュータサイエンス専攻2年の吉見春輝さんが選出されました!

カヌーポロとは、1人乗り

のカヌーに乗って水上で行うハンドボールとバスケットボールを融合したようなスポーツです。カヌーに乗った5人が1チームとなり、垂直に立てた板のゴールにシュートをし、得点を競い合います。

吉見さんは、カヌーポロ日本代表U-21日本代表として、11月4日(土)、5日(日)に駿河台大学施設にて国内最終調整合宿を行い、その後11月6日(月)～14日(火)の間マレーシアに渡り、第18回アジアカヌーポロ選手権大会に出場しました。U-21日本代表は予選を通過し、決勝トーナメントに出場。最終結果4位となりました。

古橋海威斗さん(工学研究科 修士課程)

日本機械学会の年次大会で 発表しました

9月3日(日)～6日(水)に埼玉大学で開催された(社)日本機械学会が主催する日本機械学会2017年度年次大会で、大学院工学研究科 修士課程 篠原主勲研究室 1年 古橋海威斗さんが発表しました。

古橋さんは、9月4日(月)に行われた機械力学・計測制御部門の一般セッションで「小型人工衛星に用いる構体パネルの振動解析」と題し、発表しました。

古橋さんは、「この学会の発表を経験して、相手に説明する、理解してもらうというのがどれだけ難しいことなのかということを感じました。質疑応答、他者の発表を見て、アドバイスを頂き、発表資料の構成やプレゼンの仕方といった大変勉強になることばかりで貴重な経験となりました。ご指導、ご協力いただいた指導教員の篠原准教授をはじめ、西堀名誉教授、溝口教授、そして研究室の皆様へ深く御礼申し上げます。ありがとうございました。」とコメントしています。



ストリートダンス同好会

南区フリモ7月号の巻頭特集の中で活動が紹介されました

南区エリアにて総発行部数57,850部を誇るフリーペーパー「南区フリモ」の7月号で、ストリートダンス同好会の活動が取りあげられました。

7月号の特集は、柴田商店街の一角で、地域社会の交流をつくり人々が集う憩いの場として設立された「279(つなぐ)ステーション」について。学区のボランティアの力を借り、地域住民向けのイベントを開催しています。その中で、本学のストリートダンス同好会の学生が、毎週火曜から小学生を対象に「放課後自習室」と称し、学習支援を行っていることが紹介されました。小学生の宿題や授業の復習を手伝ったり、ときには、ダンスレッスンをしたりして絆を深めている様子が写真付きで掲載されています。

また、5月には「279スペシャルダンスユニット」を結成し、学園祭の舞

台などで、オリジナルTシャツを着用して279ステーションをPRしていることも紹介されました。

なお、プロダクトデザイン専攻の制作作品を「お店ギャラリー」で展示販売することも、今後の「279(つなぐ)ステーション」の取り組みの予定として紹介されました。



下田 葵さん(建築学科 インテリアデザイン専攻)

『第12回公益社団法人 愛知建築士会 学生コンペ2017』 で佳作に選ばれました!

公益社団法人愛知建築士会が主催する「(公社)愛知建築士会 学生コンペ 2017」で、インテリアデザイン専攻の下田葵さんが、第一次審査会で6作品の入選の一人に選出され、最終審査で佳作に選ばれました。

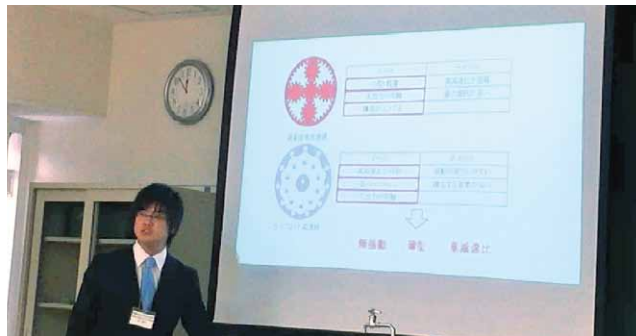
12回目の開催となる今回の課題は、「一辺3mを範囲とする空間」で、「纏う・間」の提案です。テーマに合わせて、用途を自由に設定し、新しい建築のあり方の提案がなされました。

第一審査会で選ばれた入選者は、10月14日(土)に名古屋中小企業振興会館展望ホールで開催される、第二次公開審査でプレゼンテーションをし、最終的な評価として公開審査で各賞が決定され、表彰されます。6作品が、最優秀賞(1点)、優秀賞(1点)、佳作(4点)のいずれかに決まり、下田さんは佳作に選ばれました。

また、10月12日(木)~14日(土)には名古屋市中企業振興会館(吹上ホール)「第47回 建築総合展 NAGOYA 2017」にて、2016年の最優秀賞に輝いた原寸大モデル建築と、今回のコンペでの全応募作品パネルが展示されました。

林 秀行さん(総合機械工学科)

日本機械学会の年次大会で 発表しました



9月3日(日)~6日(水)、埼玉大学で開催された(社)日本機械学会が主催する2017年度年次大会で、総合機械工学科3年林秀行さんが「無振動薄型サイクロ遊星歯車減速機の開発」と題し、機素潤滑設計部門で発表しました。

大学院生でない学部生が一般部門で発表を行うことは極めて異例のことですが、ユニークなアイデアをわかりやすく丁寧に解説し、また、聴講者からの質問にも的確に答えることができ、たいへん好評を得ました。

飯田 瑞季さん、木藤 里奈さん(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

第8回ポスターグランプリで入賞、入選しました!

中部地区印刷協議会を構成する愛知・岐阜・三重・石川・富山の5県印刷工業組合と愛知県印刷協同組合が主催する『第8回ポスターグランプリ』でメディアデザイン専攻高木基充研究室4年の飯田瑞季さんが株式会社光文堂賞を受賞、木藤里奈さんが入選しました。

今回は「with」という課題で、幅広いジャンル、豊かな発想と斬新な表現のポスター(ビジュアル・キャッチコピーを含む作品)をクリエイター一人ひとりが自由な発想で作りました。

入賞・入選した作品は、11月14日(火)~19日(日)の間、愛知県美術館ギャラリーにて開催される『入賞・入選作品展』で展示され、11月19日(日)には入賞者表彰式が行われました。



飯田瑞季さんの作品



木藤里奈さんの作品

宇佐美 龍矢さん(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

「ふるさと全国県人会まつり2017」でデザインしたうちわが配布されました

9月9日(土)、10日(日)に名古屋久屋大通公園にて開催された「ふるさと全国県人会まつり2017」にて、メディアデザイン専攻高木基充研究室4年の宇佐美龍矢さんがデザインしたオリジナルうちわが会場周辺でプレゼントされました。

ふるさと全国県人会まつりは2000年から毎年開催されているイベ

ントで、各県選りすぐりのグルメ販売、観光PRを通じて、ふるさとの魅力が紹介されています。うちわ企画では、愛知県内の大学生からデザインを募集し、宇佐美さんのデザインを含む7種類が選ばれ、オリジナルうちわとして会場周辺でプレゼントされました。



宇佐美龍矢さんがデザインしたうちわ

総合情報学科 経営情報専攻、 命をつなぐPROJECT学生実行委員会 「環境デーなごや2017」に 出展しました

9月16日(土)、久屋大通公園(名古屋テレビ塔下・エンゼル広場・久屋広場・光の広場)で開催された「環境デーなごや2017 中央行事 ～身近なエコが未来へ続く～」に経営情報専攻と本学学生が多く参加している命をつなぐPROJECT学生実行委員会がブース出展しました。



環境デーなごやは、市民・事業者・行政の協働のもと、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動を実践する契機とする行事として、2000年からスタート。それぞれの地域で行う地域行事と成果を持ち寄り発表、交流、学びあう中央行事を毎年開催しています。

18回目となる「環境デーなごや2017」は、テーマを「身近なエコが未来へ続く」として、持続可能な未来へ向けて、一人ひとりが身近なエコ活動に取り組んでいただけるよう、分野や主体、世代を超えて交流することで、環境について学び合える場を展開しました。

毎年ブース参加している本学。今年は経営情報専攻の学生が「リサイクルフラワーボトル・風車工房」のブースを、本学学生が多く参加している命をつなぐPROJECT学生実行委員会が「輪投げで外来種ハント!!」のブースを出展しました。

経営情報専攻の学生は、大澤智嗣さん、後藤優太さん、清水裕さん、戸島真之さん、末松 涼さん、西村太一さん、平子 航さん、緒川裕真さん、武田悠馬さん、水口恵理さんが参加していました。

環境デーなごやホームページ <http://www.kankyoday.com/>

近藤直生さん、築城佑果さん(工学研究科 修士課程) 日本鑄造工学会 全国講演大会で研究発表しました

9月30日(土)、10月1日(日)に秋田大学にて開催された日本鑄造工学会「第170回全国講演大会」にて、大学院 工学研究科 修士課程 前田安郭研究室 2年の近藤直生さん、築城佑果さんが研究発表を行いました。



近藤直生さんは「注湯等方法の違いによる鑄型充填挙動の直接観察」、築城佑果さんは「共通の解析モデルに対するCAEの適用例(1)」と題してそれぞれ発表しました。

前田研究室HP <http://yasuhiro-maeda.com/>



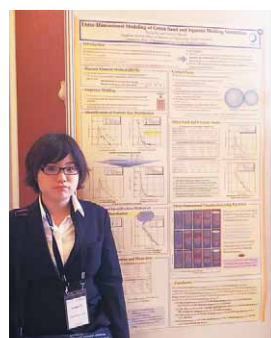
伊藤由華さん(工学研究科 修士課程) スウェーデンで開催された 国際会議で研究発表を行いました

9月3日(日)～7日(木)にスウェーデンのJonkoping市で開催された国際会議『The 11th International Symposium on the Science and Processing of Cast Iron@スウェーデン』



にて、大学院 工学研究科 修士課程 前田安郭研究室 2年伊藤由華さんが研究発表を行いました。

伊藤さんは、公益財団法人永井科学技術財団より、人材育成の助成事業の中で博士号取得前の学生を対象とした研究奨励金を受けています。



本会議では「Three-Dimensional Modeling of Green Sand and Squeeze Molding Simulation」と題して、研究発表とポスターセッションを行いました。

前田研究室HP
<http://yasuhiro-maeda.com/>



近藤早紀さん(工学研究科 修士課程) 第30回におい・かおり環境学会 ベストプレゼンテーション賞を 受賞しました

8月24日(木)、25日(金)、文京学院大学で行われた、公益社団法人におい・かおり環境協会が主催する『第30回におい・かおり環境学会』で大学院 工学研究科 修士課程 光田恵研究室 1年の近藤早紀さんがベストプレゼンテーション賞を受賞しました。

におい・かおり環境学会は、においに関する国内外の研究者、企業の方が一堂に会し、様々なにおいに関する研究や事例等を発表する場として開催されています。学会では、一般口頭発表とポスター発表、機器企画展示が行われました。近藤さんは一般口頭発表部門で『芳香剤のかおりの室内拡散挙動に関する研究』と題して発表し、今回の受賞に至りました。

平成29年度体育祭が開催されました

10月21日(土)に体育祭が開催されました。予定では、22日(日)含めて2日間の開催でしたが、台風接近の影響により、21日(土)のバスケットボールのみの開催となりました。悪天候にもかかわらず、多くの学生が参加し、盛り上がりを見せました。

順位	団体名	チーム名
1位	バスケットボール同好会	A



写真提供:アルバム委員会

ロボット研究部

9/17(日)第21回小型ロボット競技会 "BRAVE"で大活躍しました!

9月17日(日)川崎市産業振興会館1階ホールにて開催された「第21回小型ロボット競技会 "BRAVE"」において、ロボット研究部の学生が優勝、入賞するなど、大活躍しました。

小型ロボット競技会 "BRAVE" は多用途化するロボットの進化を目的として、不整地・極地で活動可能な高性能ロボットを生み出す基礎を世界に築くべく、生まれたロボット競技大会です。

機体サイズがA4判内、使用可能モーターは小型ホビー向けのモーター(130サイズ・260サイズ)の無線ロボットによる競技で、最大4機によるバトルロイヤルと凹凸のあるフィールド上での対戦をします。

本競技会でロボット研究部3年 十河直矢さんが優勝、2年 梅村光さんが4位、2年 中島啓太さんはデザイン賞受賞、1年 星野勇次さんはスピードスター賞を受賞しました。



左から優勝した十河直矢さん、デザイン賞の中島啓太さん、第4位の梅村光さん

ロボット研究部

かわさきロボット競技大会で好成績をおさめました!

8月26日(土)、27日(日)、第24回かわさきロボット競技大会が開催され、ロボット研究部で工学部 総合機械工学科3年の宮下慎之介さんと伊藤一輝さんがそれぞれ、大西家具店賞と敢闘賞を受賞しました。



左から敢闘賞の伊藤一輝さん、大西家具店賞の宮下慎之介さん

かわさきロボット競技大会は1994年に始まり、今年で24回目となる伝統ある大会で、「若者のものづくり登竜門」として、次世代産業を担う技術者の育成、技術力の向上を図る事を目的として毎年多くの学生・社会人が集まり、開催されています。

本学のロボット研究部が参加したバトルロボット部門は、脚・腕構造を持つラジコン型ロボットによる異種格闘技戦で、相手をラウンド内に倒すカリング場外部に相手機体を押し出したら勝ちとなります。

大会は26日(土)に予選トーナメント、27日(日)に決勝トーナメントが行われ、209体にも及び参加ロボットの内、予選トーナメントから決勝トーナメントに進めるのはわずか上位32体。厳しい、白熱した戦いとなりました。

第54回錦杯学内レガッタ大会が開催されました

通算54回目となる本学伝統の「レガッタ大会」が10月29日(日)に行われました。

秋晴れの青空のもと、クラブの部から10チーム、一般の部から6チームが参加しました。ボートを漕いだことのない学生も多く、当初は戸惑いの表情を浮かべるチームもありましたが、少し慣れてくるとみんな真剣に楽しそうに漕いでいました。

5人1組で漕ぐレガッタは、5人の息をいかに合

わせるかが重要で、力任せに漕げばよいわけではありません。まだレガッタ大会に参加したことのない学生も来年こそは挑戦し、その魅力をぜひ体感してみてください。



写真提供:アルバム委員会

クラブの部

順位	団体名	チーム名
1位	吹奏楽団	SFZ(スフォルツァンド)
2位	ロボット研究部	ロボ研はレガッタ四天王の中で最弱の称号を手に入れた。
3位	EDPS部	ユニバース激激

一般の部

順位	チーム名
1位	山田錦
2位	筋肉室漕艇クラブ
3位	大同インテリジェンス

神保睦子学長

中日新聞(夕刊)で連載「紙つぶて」を担当しています

7月4日(火)から中日新聞(夕刊)で毎週火曜日に掲載されている連載記事「紙つぶて」を、神保学長が担当しています。

初回の7月4日(火)の記事では「人生は何が起きるか分からない。予想外と言えば、この欄を担当することになったのもそうだが、せっかくの機会を楽しんでいきたい。よろしくお付き合いください。」と述べています。



7月4日(火)付 中日新聞(夕刊)

前田安郭教授(機械工学科)

日本鑄造工学会「特別功労賞」を受賞

9月30日(土)、10月1日(日)に秋田大学にて開催された日本鑄造工学会「第170回全国講演大会」のうち、9月30日(土)に開催された85周年記念式典にて、前田教授が「特別功労賞」を受賞しました。

また、講演大会でも前田教授は「湯流れシミュレーションを利用したダイカストの鑄造条件の最適化」と題して連名発表を行いました。

前田研究室HP <http://yasuhiro-maeda.com/>



徳納一成教授(機械工学科)

「最先端鉄鋼体験セミナー」で講師を務めました

8月28日(月)、大同特殊鋼株式会社知多工場で行われた、『最先端鉄鋼体験セミナー』で、徳納教授が講演を行いました。

今回のセミナーは、大学と企業の第一線の研究者が鉄鋼の最先端技術や将来の展開を紹介し、さらに、実際の製鉄所を見学するというもので、大学1~3年生を対象に開催されました。

プログラムは午前と午後の2部に分かれ、午前中に大学と企業の第一線の研究者が、鉄鋼の最先端技術や面白さ、重要性、将来の展開などを紹介。本学の徳納教授と大同特殊鋼(株)の方が講師を務めました。そして、午後にはバスで最先端の製鉄所を訪問し、セミナーで聞いた話を踏まえた見学が行われました。

徳納一成教授(機械工学科)

一般社団法人金属系材料研究開発センターの会報7月号巻頭に寄稿しました

一般社団法人金属系材料研究開発センター(別称:JRCM)からの依頼を受け、JRCM NEWS 7月号(369号)の巻頭に徳納教授の『「実学主義」を貫く教育と研究を信条として』が掲載されました。

一般社団法人金属系材料研究開発センターは、金属系材料の製造及び利用に関する研究開発を行い、金属系材料に係る新機能の付与、品質の改善向上、利用の拡大、製造プロセスの革新等を図ることにより、金属系材料に関連する産業を振興し、もって我が国経済の発展と国民生活の向上に資することを目的としています。

徳納教授は会報の中で、大同大学について、「名古屋市南区に位置する学生総数3,500名程度の中規模の大学です。しかし、その歴史は古く、いかにも中京地区の学園らしいどっしりとした歴史を有しており、本学の歴史は実に魅力的です。」と語っています。

坪井涼准教授(機械工学科)

「サステナブルトライボロジー会議2017奄美大島」の実行委員会幹事を務めました

10月13日(金)~16日(月)に一般社団法人日本トライボロジー学会が主催した「サステナブルトライボロジー会議2017奄美大島」の実行委員会幹事を坪井准教授が務めました。

サステナブルトライボロジー会議は、様々なバックグラウンドを持つトライボロジストの交流を通し、新たな絆の創造を目的に企画されたものです。非日常的な環境の中、シニアから若手、学生までが寝食をともにしてオープンな雰囲気の下でスキンシップな議論を交わし、通常の学会や研究会参加では得られないインスパイアに満ち溢れた時と空間を体験することができます。今回は、日本-台湾国際シンポジウムも同時開催され、台湾の研究者らとの国際交流もなされました。

坪井涼准教授(機械工学科)

論文が機械学会学術誌の年間アクセス数の10位に輝きました!

一般社団法人日本機械学会が発行している学会誌「日本機械学会誌」2017年8月号(Vol.120)で発表された、『日本機械学会学術誌(和文)年間アクセス数トップ10』で坪井准教授が参加している研究グループの論文が10位に輝きました。

選ばれたのは、日本機械学会論文集 Vol.82(2016)No.838に掲載の「各種市販エンジンオイル潤滑下におけるDLC膜のトライボロジー特性」です。

2016年4月から2017年3月の期間でアクセス数が集計され、今回のランクインとなりました。

植田俊明教授(電気電子工学科)

電気学会電力エネルギー部門大会にて座長を務めました

9月5日(火)~7日(木)に明治大学で開催された、電気学会 電力・エネルギー部門が主催する「平成29年 電気学会 電力・エネルギー部門大会」で植田教授が座長を務めました。

本大会では、3日間にわたって、論文発表や特別講演、パネルディスカッション、座談会、見学会が行われ、植田教授は、9月5日(火)の午後に行われた「雷インパルス・雷害対策」の座長を担当しました。

堀尾吉巳教授(電気電子工学科)

7月発行 学術雑誌「表面科学」の巻頭言に寄稿しました

公益社団法人日本表面科学会が発行している学術雑誌「表面科学」Vol.38(2017)No.7 p.323(7月発行)の巻頭言に堀尾教授が「RHEEDに対する雑感」を寄稿しました。

巻頭言の最後には、「…冬期には濃紺色の天空が暁、東雲を迎えるころになると、地平線からオレンジ色の何とも鮮やかなグラデーションが現れる。そして曙、朝暁を経て太陽が昇り天空は色を変えて明るくなる。この光景はRHEED観察において、入射電子をきわめて低い視射角から高くしていくときのパターン変化に感覚的に重なるものがあり、何故か私にトキメキを感じさせてくれる」と述べています。

武藤隆教授(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

第25回愛知まちなみ建築賞の選考委員長を務めました

第25回愛知まちなみ建築賞の募集要項が発表され、武藤教授が選考委員長を務めることが決定しました。

武藤教授は、過去5年間も選考には関わっていましたが、選考委員長を務めるのは今年度からとなります。

「愛知まちなみ建築賞」は、良好なまちなみ景観の形成や、潤いのあるまちづくりに寄与するなど、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物、または、まちなみを表彰することにより、建築物のまちづくりに果たす意義や役割を啓発し、魅力ある地域環境の形成を図ることを目的として、平成5年から毎年実施しています。今年度は、愛知県内で平成24年4月1日から平成29年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみが選考の対象となります。

樋口恵一講師(建築学科 土木・環境専攻)

専門紙『物流ニッポン』にインタビュー記事が掲載されました

8月24日(木)付の専門紙『物流ニッポン』に樋口講師へのインタビュー記事が掲載されました。

掲載されたのは、特集「ロジスティクス最前線」で、2015年より始めている研究について記事内で樋口講師は「今回の分析で、トラックが道路交通のなかで嫌われるのは、交通マネジメントにうまく適応できてい

ないからだとの思いを強く抱いた。…安全の視点だけでトラックを一般の流れから分離するのではなく、交通インフラの中にもうまく適合させることが重要だ。」と述べています。

嶋田喜昭教授、樋口恵一講師(建築学科 土木・環境専攻)

「日本福祉のまちづくり学会 第2回全国大会」で実行委員および、コーディネーターを務めました

8月9日(水)~8月11日(金)に、日本福祉大学東海キャンパスにて開催された、「日本福祉のまちづくり学会 第20回全国大会」で、嶋田教授と樋口講師が実行委員および、研究討論会のコーディネーターを務めました。

本全国大会のテーマは「[ともに創り続けよう福祉のまちづくり 未来に向けて]」です。さらに充実した福祉のまちづくりは、思いやる心と知恵を出し合う探究心の共創・共生から生まれてくるものとし、20回目を迎えた本大会では、多くの研究者や市民、企業関係者が行う研究発表・展示会・シンポジウムを通して、これまでの取り組みを振り返り、未来に向けた福祉のまちづくりの方向性が議論されることを期待し、開催されました。

8月10日(木)に研究討論会が行われ、嶋田教授は「高齢ドライバーの実態と対策」、樋口講師は「乗合バスにおける車いすの固定について」のコーディネーターを担当しました。また、本学から11名の学生が大会運営に協力しました。

鷲見哲也准教授(建築学科 土木・環境専攻)

7/19(水)中日新聞で伊勢湾台風時に撮影された写真の解説が取り上げられました



7/19(水)付 中日新聞

7月19日(水)付中日新聞の、7月20日(木)から愛知県公文書館展示室で伊勢湾台風時に撮影された未公開写真2,000枚が初公開される旨を報じる記事内で、建築学科土木・環境専攻の鷲見准教授の解説が紹介されました。

公開される写真は伊勢湾台風襲来翌日の1959年9月27日から年末にかけて愛知県津島市や弥富町(現弥富市)、飛島村、蟹江町、一宮市などで県や市町村の職員が記録用に撮影したとされ、ほぼ全てが未公開とみられています。鷲見准教授は記事内で、当時の浸水地域の物資運搬や供給ネットワークが小舟による水路移動で行われていたことに触れ、防災対策上も貴重な写真であることを解説しました。



8月24日(木)付 物流ニッポン

光田恵教授(総合情報学科 かおりデザイン専攻) 9/26(火)日本農業新聞で 要介護者の衣類や空間の臭い対策 についての解説が取り上げられました

9月26日(火)付日本農業新聞の、要介護者の衣類や空間の臭い対策について、総合情報学科かおりデザイン専攻の光田恵教授が解説しました。

光田教授は、臭いの発生原因は1つでない場合もあり、それぞれに適切な対応をする必要があることのほか、介護される側が臭い対策をすることで気分を害すことがないように、介護する側とされる側のお互いがストレスを増やさないよう理解を促す会話を心がける必要性について解説しました。



9月26日(火)付 日本農業新聞

光田恵教授、岩橋尊嗣特任教員(総合情報学科 かおりデザイン専攻) 日本石鹼洗剤工業会の広報紙に インタビューが掲載されました

9月15日(金)発行の日本石鹼洗剤工業会の広報紙「クリーンエイジ」に、「においと香りについて知り、人がどう感じるかを学ぶ〜香りと上手に付き合うために、必要なことは?〜というタイトルで、総合情報学科かおりデザイン専攻の光田恵教授と岩橋尊嗣特任教員のインタビューが掲載されました。

インタビューの中で光田教授と岩橋特任教員は、におい・香りのメカニズムを解説しつつ、においに関する経験や教育が不足していることで人間関係に影響を及ぼすおそれがあること、その対処のために香りの専門家を育成する必要があり、その人達が社会に出て情報発信していくことが重要であると話しました。



9月15日(金)発行
日本石鹼洗剤工業会 広報紙「クリーンエイジ」

山口一教授(総合情報学科 かおりデザイン専攻) 2017年室内環境学会講演会で 趣旨説明の担当をしました

9月6日(水)に幕張メッセの国際会議場で開催された、一般社団法人 室内環境学会が主催する、2017年室内環境学会 講演会で山口教授が趣旨説明を担当しました。

テーマは「空気中の微粒子測定と可視化技術の最新情報」です。世の中には、微小粒子状物質(PM2.5)、燃焼ガス、排ガスや花粉・アレルギーなど様々な微粒子が存在し、人体への影響を含め大きな問題となっていることを背景として、本講演会では、微粒子全体の解説から、微粒子の測定法や予測・解析法、さらに肉眼で見えない微粒子の可視化技術などを各分野の専門家の方々が解説しました。

山口一教授(総合情報学科 かおりデザイン専攻) 電気設備学会誌に 論文が掲載されました

一般社団法人 電気設備学会が発行している『電気設備学会誌第37巻(2017年)9月号』の特集「高齢者受入施設の電気設備」の中の1つとして山口教授の「病室における臭気制御システム」が掲載されました。

本論文では、『「病室における臭気制御システム」は、室内において、種々の臭気物質による悪臭の問題や揮発性有機化合物によるシックハウス症候群・化学物質過敏症等が話題となっている。これらの課題を解決するため、室内の化学物質をモニタリングできる手法を確立し、半導体センサによる簡易測定法を検討してきた。

本稿では、実際の建物への半導体センサの導入を目指し、実用化に必要であるセンサの課題の検証と病室でのセンサによる外気導入制御についての基礎的検討を実施した。これらの知見は、高齢者受入施設や事務所ビル等、他の建物への応用も期待できる。

今後は、本稿の知見に基づいて、病室での半導体センサによるさらなる外気制御の効率化や、事務所ビル等の他用途建物への本センサの展開を図りたい。』と、述べられています。

大東憲二教授(総合情報学科 経営情報専攻) CBCラジオで電話取材の コメントが放送されました

8月3日(木)、CBCラジオ「多田しげおの気分爽快〜朝からP.O.N」(毎週月曜〜金曜 6:30〜9:00)にて、大東教授の電話取材のコメントが放送されました。

内容は、「情報サプリメント」のコーナーで、テーマは湧き水について。そもそも湧き水とは何か、どこで湧くのかなどを大東教授が解説したものを放送し、それにパーソナリティーの多田さんがコメントをする形で約12分間話がなされました。

大東憲二教授(総合情報学科 経営情報専攻) 「日本アセスメント協会中部支部 平成29年度第1回技術セミナー」 で講演を行いました

10月27日(金)に「今池ガスビル」ダイヤモンドルームで開催された、一般社団法人 日本環境アセスメント協会が主催する「日本アセスメント協会中部支部平成29年度第1回技術セミナー」で大東教授が講演を行いました。

今回のセミナーは環境地盤工学を専門とし、土壌・地下水の汚染、広域地盤沈下などの環境問題の発生と拡大を防止する工学的的手法について研究している大東教授と、公益財団法人 日本環境協会を通じ土壌汚染の知識やリスクコミュニケーションに関する普及・啓発に尽力されているランドソリューション株式会社 技術主幹 橋本正憲氏が講演を行いました。

大東教授は「環境アセスメントを巡る最近の動向」と題して、講演を行いました。

佐藤壮一郎教授(総合情報学科 経営情報専攻) 柴田小学校で道徳授業の 講師を務めました



9月26日(火)、男子ハンドボール部の監督を務める佐藤教授が講師として招かれ、柴田小学校の全学年の児童を対象に道徳授業を行いました。

佐藤教授が担当した道徳授業のねらいは「社会で活躍している方の話を聞くことで、粘り強く努力することの大切さや、夢を持ち続けることの大切さを学ぶ」こと。



佐藤教授は「夢があるから強くなれる」と題して、自身の夢についてや、その努力を語り、また、男女ハンドボール部の学生による実演を交えて、45分の授業を行いました。

酒井陽一教授(教養部 化学教室)

東京農業大学で講演を行いました

7月18日(火)、東京農業大学 大学院 バイオサイエンス専攻において、酒井教授が「メスbauer分光法の基礎と化学・生物学への応用」と題して講演を行いました。質疑応答を含め2時間程度で、教職員、大学院生など60~70名の聴講者がありました。

平成28年度より、教養部化学教室の酒井陽一教授と高山努教授が、同専攻の新村教授グループとの化学と生物学の境界領域へメスbauer分光法を応用した共同研究(微生物の代謝における鉄の化学的・生物学的役割の解明)をスタートさせ、その縁から講演を依頼されました。なお、この講演は、東京農業大学 大学院の講義(オムニバス式講義の一つ)も兼ねるとのことです。

「メスbauer分光法の基礎と
化学・生物学への応用」

酒井 陽一 (大同大学)

2017.7.18 (東京農大)

コンテンツ

1. メスbauer効果とは
2. メスbauer分光とは
3. どうやって測定するのか
4. 何がわかるのか
5. 化学への応用例
6. 生物学への応用例
7. その他



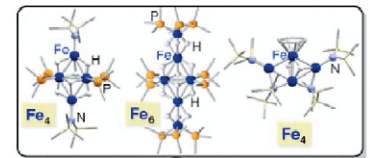
酒井陽一教授(教養部 化学教室)

論文が化学国際学術雑誌に 掲載されました

教養部 化学教室の酒井教授と名古屋大学 大学院 理学研究科・大木靖弘准教授グループとの共同研究からの成果として、『[Fe₄] and [Fe₆] Hydride Clusters Supported by Phosphines: Synthesis, Characterization, and Application in N₂ Reduction』と、『Synthesis and Characterization of Bioinspired [Mo₂Fe₂]-Hydride Cluster Complexes and Their Application in the Catalytic Silylation of N₂』の論文が、それぞれ、アメリカとヨーロッパを代表する化学国際学術雑誌に掲載されました。研究内容は、窒素固定(空気中の窒素をアンモニアあるいはアンモニア類似化合物に化学変化させる)のための新規の鉄クラスター分子触媒の開発であり、酒井教授の担当は触媒のメスbauer分光解析です。また、前者の論文の研究内容は、The International Symposium on Pure & Applied Chemistry (ISPAC) 2017のkeynote講演と認められました。keynote講演は220件から8件が選ばれたものであり、国際的にもトップクラスとの評価を受けたこととなります。

2編の論文の著者、雑誌名、巻、号、ページ 発刊年月などは、以下のとおりです。

Fe₄-1 and Fe₆-1 Hydride Clusters Supported by Phosphines: Synthesis, Characterization, and Application in N₂ Reduction
Ryoichi Araake, Kazuki Sakadani, Mizuki Tada, Yoichi Sakai, and Yasuhiro Ohki
pp 5596-5606
Publication Date (Web): April 3, 2017 (Article)



■ Ryoichi Araake, Kazuki Sakadani, Mizuki Tada, Yoichi Sakai and Yasuhiro Ohki
Journal of American Chemical Society,
Vol. 139 (15), pp 5596-5606 (2017.4)

■ Yasuhiro Ohki, Yuna Araki, Mizuki Tada and Yoichi Sakai
Chemistry - A European Journal,
Vol.23 (53), pp.13240-13248 (2017.9)

澤岡昭名誉学長

『ものづくり塾』~新素材の勘どころ~ を開講しています

この『ものづくり塾』は、澤岡昭名誉学長を塾長とし、中部地区の製造業に従事される技術者を対象に新素材を理解するための"勘どころ"を分かり



やすく伝えることを目的した「6か月間の通信講座」と併せて「10月・12月・2月の計3回のスクーリングを本学にて開講」する講座です。塾生は、25社から38名のお申し込みを頂きました。

第1回目のスクーリングは、10月28日(土)、澤岡塾長の講義とトヨタ自動車(株)を退職後、本学非常勤講師を務めている神谷純生博士をお招きし、合計2時間30分の講義と講演が行われました。

高木康夫研究室(電気電子工学科)

東伊豆町風力発電所に設置された空圧蓄電装置を見学に行きました

9月28日(木)、伊豆半島にある東伊豆町風力発電所に設置された空圧蓄電装置を、高木研究室が見学に行きました。

見学に参加したのは、高木研究室の学生のうち、空圧蓄電を研究している4年生2人と大学院生1人です。

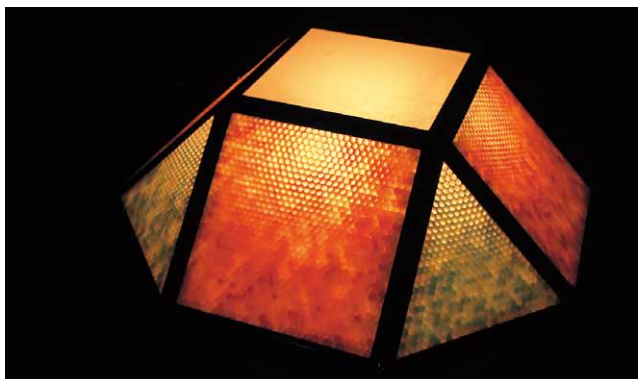
空圧蓄電装置とは余った電気のエネルギーを圧縮空

気として蓄えるもので、必要な時にその空気で発電機を回して電気を得ます。この装置は風力発電所の電力の変動を抑制する試験のために開発されたもので、日本では初、世界でも2番目の最新鋭の装置です。見学に参加した学生は皆、高圧空気を蓄える巨大な容器の列に驚いていました。



中島貴光研究室(建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

「第24回美濃和紙あかりアート展」に出展し、一部入選しました



10月7日(土)、8日(日)に開催された「第24回美濃和紙あかりアート展」に、中島研究室から7組13名の学生が出展し、そのうちの、4年 河合樹生さん、小原千佳さんが制作した作品が入選しました!

美濃和紙あかりアート展は、「美濃和紙」と「うだつの上がる町並み」を融合し1994年から開催されているイベントで、1300年の伝統を誇る「美濃和紙」を使用するあかりのオブジェを全国公募し、全作品を「うだつの町並み」に展示します。一般部門296点、小中学生部門117点、計413点の作品が展示され、両日合わせて9万人が来場しました。

美濃和紙あかりアート展HP
<http://akariart.jp>



左から小原千佳さん、河合樹生さん

小島一宏研究室(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

堤幸彦監督にインタビューしました!

小島研究室では毎年夏休みを利用して、学生たちが小島准教授とともに映画業界の第一線で活躍する著名な映画監督へのインタビュー取材を行っています。映画監督の作品制作におけるルーツや信条などに迫る小島准教授のインタビュー研究の一環であると同時に、学生たちが一流の監督から直に刺激を受けられる貴重な機会として取り組んでいます。

今年度は、映画『二十世紀少年』や『TRICK』『SPEC』シリーズなどヒット作を作り続ける、堤幸彦監督にインタビューしました。

例年、東京や大阪に研究室の学生全員で出向きインタビューを敢行していますが、堤監督は地元が名古屋ということもあり、お忙しい合間を縫って本学までご足労いただきました。8月21日(月)B棟0401教室にて、まず小島准教授から「監督が人生で夢になった3つのこと」について、さらに学生から事前に議論を重ねた



「監督の各作品についての質問」を順に投げかけ、2時間ほどにわたってロングインタビューを実施。その模様を動画カメラ2台と音声録音機で収録しました。

たとえば『二十世紀少年』の原作のイメージに似せたキャスティング、『BECK』で主人公の歌声を映像のみで表現したワケ、さらに堤監督が俳優に求めていること、これからの監督の夢、などなど、他では聞けないお話をざっばらんにお話しいただき、とても貴重なインタビューとなりました。もちろん、学生たちにも忘れ得ぬひと時になりました。

上岡和弘教授、情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

区より依頼を受け「高齢者見守り活動啓発PV」を制作しました

「南区地域包括ケア推進会議高齢者孤立防止対策部会(つながろうねっと)」より上岡教授が依頼を受け、メディアデザイン専攻の学生とともに、「高齢者見守り活動啓発プロモーションビデオ(PV)」を制作しました。

「南区地域包括ケア推進会議高齢者孤立防止対策部会(つながろうねっと)」は、名古屋市が各区に設置した高齢者支援組織のひとつで、以前も、上岡教授とメディアデザイン専攻の学生が「南区いきいきMAP」を作成し、5月に完成しました。今回は「高齢者見守り活動啓発PV」の作成を依頼され、撮影を終了しました。

制作に参加した学生は、メディアデザイン専攻1年 荒川ゆうさん、大杉伊織さん、3年 林憲太郎さん、松井翔也さん、鈴木翔悟さん、

4年 青山大樹さん、平田優哉さんです。PV制作の企画段階から参加出来ることで、プロの仕事の仕方を間近に体験することができました。

「高齢者見守り活動啓発PV(プロモーションビデオ)」の完成披露は、11月25日(土)日本ガイシフォーラムにて開催の南区主催イベント「みなみシニア大集合」で、5月に完成した「南区いきいきMAP」ともに行われました。

関連記事:

区より依頼を受け「南区いきいきMAP」を作成しました/上岡研究室
http://www.daido-news.jp/daido_news/teacher/post-11.html



情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 白川町の特産ヒノキの商品化に 取り組んでいます

今年度より、プロダクトデザイン専攻が岐阜県にある白川町と連携し、特産ヒノキの需要拡大のための、魅力ある製品の開発に取り組んでいます。



3月に名古屋市と白川町でとられた消費者への調査をもとに、プロダクトデザイン専攻の学生30人が有志で参加し、木目や香りの良さを生かした製品を考え、7月には、白川町で報告会が行われました。丸形のパーティートレーや、ポケットティッシュボックス、ネクタイピン、動物柄のハンガーなどの試作品が展示され、中には、かんなくずで作ったバラなどもあり、『これまで捨てていた端材を活用できる』などの意見がでました。合計24種類の製品が提案され、そのうちの5つが商品化に向けて動きだしています。

この報告会は、新聞各紙で大きく取り上げられ、中日新聞、朝日新聞、毎日新聞、岐阜新聞、に学生の製品の写真とともに掲載されました。

また、白川町との取り組みは、製品化だけでなく、特産ヒノキの認知度を上げる活動もしています。11月5日(日)に日本ガイシスポーツプラザで開催された南区区民まつりでは、白川町のヒノキを使用したストラップに、プロダクトデザイン専攻の学生がデザインを施したものを、スタンプラリーのプレゼントとして配布し、100個用意していましたが、あっという間に配布を終えました。



杉本幸雄研究室(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) 岐阜県白川町のプロ動画の 制作を進めています

プロダクトデザイン専攻にもある岐阜県白川町の東濃ヒノキに関するプロジェクトにおいて、メディアデザイン専攻の杉本幸雄教授に白川町のPR動画の撮影依頼があったことから、杉本研究室の学生も撮影に参加して制作を進めています。

白川町は独特の地形・気候に恵まれ、良質なひのきを産出する町で、その山から生まれるのが「東濃ひのき」です。主に加茂・恵那地域を中心とした東濃地域で産出されている檜ブランドで、色は淡いピンク色、艶・香りもよく、年輪幅は細かくて均一、芯が円心にあり曲がりも少ない「美しく強い木」です。白川町内のヒノキ製品を扱う企業などを中心に取材し、自然の風景などを交えながらヒノキの良さを改めて知ってもらうための制作を行っています。



篠原主勲研究室(総合機械工学科)、 井藤隆志研究室(情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻) ロボット技術・産業フェアに出展しました

7月27日(木)~30日(日)にポートメッセなごやにて、ロボカップ2017と併催された「ロボット技術・産業フェア」に総合機械工学科 篠原研究室と、プロダクトデザイン専攻 井藤研究室がそれぞれ出展しました。

篠原研究室は、学生が常駐し、有限会社こんせいと有限会社名南機械製作所との共同研究で制作した有松・鳴海絞ロボットの実演と、ロボットを使った絞り染め体験を実施しました。絞りロボットを共同で開発する西堀賢司名誉教授、(有)こんせい(鳴海絞り)、(有)名南機械製作所(精密加工)の協力により実現したものです。



絞り染め体験には連日長蛇の列ができ、約500枚用意したハンカチが不足するほど盛況でした。

井藤研究室は、「愛知県・名古屋市」の出展ブースの中で、高橋製瓦株式会社と共同開発した電動車いす「SCOO」(スクー)を出展しました。

競技者だけで40カ国以上、3000人を超えるロボカップの併催だけあって、どのブースも大盛況でした。

関連記事:井藤研究室が企業と共同で電動車いすを開発
<https://www.daido-news.jp/news/2017/02/24183231.html>



研究室紹介/篠原研究室「愛知の伝統工芸、有松・鳴海絞の技術をロボットで伝承していきたい。」
<https://www.daido-it.ac.jp/dept/system/lab/>



総合情報学科 経営情報専攻 学内の教職員を対象に 「Let's DU sports!!」を開催しました

7月14日(金)、21日(金)、28日(金)に本学 石井記念体育館にて、「Let's DU sports!!」を経営情報専攻が開催しました。

「Let's DU sports!!」とは「スポーツを通して健康な体を保ちましょう」と題して、経営情報専攻の学生が学びの一環として、学生室と協力し、企画したものです。日頃、お世話になっている教職員にスポーツを通して健康維持、増進をしてもらうことを目的とし、学内にチラシを配ったり、教職員に直接声をかけたりして、参加者を募っていました。

手島大仁さん、不破勝彦教授
(情報学研究科 修士課程、情報システム学科)

共同論文が12月号の『電気学会論文誌C』に掲載されます

一般社団法人 電気学会が発行している『電気学会論文誌C (電子・情報・システム部門誌)』に、情報学部 情報システム学科 不破勝彦教授と、本学大学院 情報学研究科 不破研究室 2年の手島大仁さんが投稿した論文「3次遅れ要素による高域遮断フィルタを併合した最適レギュレータ」が12月号 (Vol.137 No.12)に掲載されることが決定しました。

本論文は、1月20日に電気学会B賞として受賞された内容をまとめたものであり、投稿後わずか2ヶ月の早さで掲載決定となりました。

2013年に、指定された2次遅れ系による高域遮断フィルタを併合することができる最適レギュレータの設計法を不破研究室の大学院生が論文化してきましたが、今回の論文ではさらにフィルタの次数を高める設計法を与えることに成功しました。フィルタの次数が高くなっても、従来法と同次数の代数方程式を解くことで設計が可能であることを数学的に明らかにしたことが特徴です。

今後は、方程式の解の存在性や実験による有効性の検証などを通じて、設計法を完成させることを目標とし、一部の内容は9月に開催された学会で発表されました。

平成29年度 韓山師範学院 短期留学報告会を開催しました

10月23日(月)、本学A棟14階交流室にて、中国・韓山師範学院に短期留学した学生10名による留学報告会が開催されました。

学生たちは、9月3日(日)～9月16日(土)の2週間、中国広東省・潮州市

にある韓山師範学院へ短期留学しました。切り絵や中国画などの中国文化に触れたり、太極拳の実技指導を受けたり、市内見学や工場見学を行い、中国を肌で感じてきました。

報告会では、「建築・都市」、「文化・交流」、「産業・経済」のテーマごとに3グループに分かれ、パワーポイントを使って発表しました。現地で撮影した写真を使いながら中国(潮州)の建造物や街並み、食文化、働き方など、現地で感じたことや自分たちで調べたことを発表し、「親切にしてもらったことが多く、人の温かさに触れた」、「貴重な体験となった」と感想を述べました。

留学期間中の現地での様子や学生たちのレポートをブログ形式で大学ホームページに掲載しています。

こちらからご覧ください。

短期留学ブログ

<https://daido-gakusei.tumblr.com/>



愛知県立愛知総合工科高等学校と連携協力に関する協定を締結しました

大同大学と愛知県立愛知総合工科高等学校は、9月1日(金)に連携協力に関する協定を締結しました。

本協定は、高校生の視野を広げ、学修意欲を高めるとともに、大学の求める学生像および教育内容への理解を深め、かつ高校教育・大学教育の活性化を図り、人材育成に役立てることを目的としたものです。

9月1日(金)に、本学学長室で行われた締結式では、愛知総合工科高等学校の間瀬校長と大同大学の神保学長が協定書に調印しました。

具体的な連携事業については、今後、検討を進める予定となっています。



澤岡昭名誉学長

大同大学宇宙塾 第1回を開催しました

10月19日(木)A棟14階交流室にて、大同大学宇宙塾 第1回を開催しました。

宇宙塾は、第1回目を本学創立50周年事業の一環として平成26年度に全10回の講座を開講し、好評のうちに終わることができました。第2回目の開催となる本年度は、本学後援会及び同窓会会員を主な対象として、3月まで全6回の開講を予定しております。

講師は、第1回目引き続き、平成29年3月末まで18年間大同大学長を務め、現在は、JAXAきぼう利用研究総括を務める澤岡昭大同大学名誉学長です。

第1回のテーマは『ロケットのはなし』。資料には、JAXA提供のロケットやエンジンなどの写真が多く含まれ、最後には質問が多く出るなど、大変盛況に終わりました。



大同大学特別講演会 「未来への飛翔～宇宙はすぐそこに」 を開催しました

7月27日(木)に中日パレスにて、本学の澤岡昭名誉学長と宇宙飛行士の土井隆雄さんによる講演と座談会が行われました。

学内外から約200名の参加者が訪れ、大変盛況でした。



澤岡名誉学長は講演の中で、高齢者用トイレ開発のための被験者として世界最年長の宇宙飛行士を本気で目指していることを明かし、土井さんからエールを受けていました。

土井さんはご自身の宇宙での経験談を交えながら、「宇宙をめざせ」をスローガンに、宇宙で活躍する人材育成の重要性を説き、「有人宇宙学」の創出に励まれている旨を話されていました。

本学情報デザイン学科メディアデザイン専攻の小島一宏准教授が司会を務めた座談会では、お二人の出会った頃のエピソードが披露されたり、参加者からの質問もあり、終始和やかな雰囲気で行われました。

大同大学では、2001年の毛利衛さん、2015年の向井千秋さん、そして今回の土井隆雄さんと、3名の宇宙飛行士による講演会が実現しました。この3名は、1985年に日本人宇宙飛行士候補者の1期生として選ばれ、1986年には澤岡名誉学長が訓練中の彼ら3名の宇宙実験ゼミの講師を務めたという共通点があります。今後も多くの日本人宇宙飛行士が誕生し活躍されるとともに、いつの日か大同大学で講演して頂くことを願ってやみません。

模型部

展示室で作品展示を行いました

10月11日(水)～10月24日(火)、本学展示室にて、模型部が作品展示を行いました。

今までに作成した作品だけでなく、模型の専門雑誌や、組み立て前の部品、制作の過程を解説したものや、エアブラシなども展示。とても細かいものから、迫力を感じるものまで、様々な模型があり、じっくりと楽しむことができる展示となりました。

